

南アルプス市立櫛形中学校 学校関係者評価書

南アルプス市立櫛形中学校関係者評価委員会	令和6年1月26日(金)作成
<p>第3回学校関係者評価委員会            実施日：令和6年1月22日(月)            評価委員：学校関係者評価委員</p> <p>【学校評議員】 相原千里 横小路淳一 渡邊寿子 梅本澄雄 河野木綿子 中込和彦            【PTA関係】 川西祐香（前会長 欠席） 三井奈々恵（会長 欠席）            【学 校 側】 上田直人（校長） 吉原仁実（教頭） 矢崎恭央（教頭）</p>	
<p>学校関係者評価委員会 紙上提案内容</p> <p>(1) 学校運営の重点と取組の状況について            (2) 自己評価書について                ① 教職員の自己評価，生徒のアンケート，保護者アンケートの結果について                ② 今後の方針(改善策)について            (3) 学校関係者評価委員からのご意見            (4) その他            学校関係者評価書作成について</p>	
<p>【学校関係者評価書】 《学校関係者評価委員の意見の集約》</p> <p>I 学校教育目標・学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が校長の掲げる教育目標をよく理解し，学習指導・生徒指導においてワンチームとなり成果を上げていて素晴らしいと思う。</li> <li>・教育方針がしっかりしていて，職員が子どもをしっかり見ている。正すべきところは指導し，良いところは褒めて伸ばしていて，生徒一人一人を知るために効果的に ICT を活用している。校長のリーダーシップのもと今後もたくさん指導し，よき伝統を築いていってほしい。</li> <li>・この2年間で学校改革を推し進められ，教師が生徒と向き合う時間がとれるよう学校のスリム化を行ってきたことが素晴らしい。人や予算が増えない状況で学校が抱える課題も複雑化しているが，学校教育目標の達成「知」「徳」「体」を育むために，今後も地域に先駆けた取り組みを進めていってほしい。</li> <li>・不登校については，抜本的な解決策はないが，子どもを取り巻く状況は様々であり，そのことを理解しつつ，子どもが学校に来ることで少しでも明るい気持ちになれるよう，生徒と悩みながらも解決に向け模索していってほしい。</li> <li>・施設の活用という点で，特別支援の視点を生かした教室配置など検討しているという点で工夫がみられる。一方，生徒数の減少に伴い空き教室が目立つようになり，そのより良い活用は今後の課題である。</li> <li>・保護者対応についてはこれまで通り管理職がその姿勢を示しながら，対応する教師に負担感を与えないよう支えていってほしい。</li> <li>・学校評価が来年度から12月実施の年1回になるので，経年変化で評価し，今後どうしていくのか，保護者の意見に対しての答えも含め実りある学校評価実施をしていってほしい。</li> </ul>	

## II 学習指導について

- ・授業中意見を挙手して言えない生徒にとって ICT 活用によって意見を言えたり、自己肯定感が向上したりする。教師も ICT 活用のスキルを向上させるよう学び続けてもらいたい。ICT 活用が目的ではなく生徒に必要な学ぶ力や自分の良さを体得させるための手段として活用して欲しい。
- ・ICT 活用によって時間をかけなくても効率的に答えが得られることから、今後も体験として捉えられるよう教育活動をしていくことが大切であろう。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域との交流も再開され良いことだと思う。
- ・老若男女の先生方の様々な授業スタイルや生徒の多様な学びの姿を見ることができほっとしている。百の子どもがいれば百の学びがあるので校長先生はじめ先生方の大変さがよく分かる。一律的な授業ではなく、様々な職員の力を時と場合により組み合わせながら、生徒にわかる授業を提供して欲しい。
- ・授業のめあてに対してスリンプルプログラムを生かしながら、何回も生徒同士で対話を重ね解決に結びつけていく授業のスピード感に時代を感じた。中にはついていけない生徒もいるかもしれないので細部に行き届いた指導をお願いしたい。
- ・2. 3年生は教師の発問にいろいろな意見をためらわず言っている姿を見て、スリンプルプログラムの成果が表れていると感じた。1年生は小1の頃からスリンプルプログラムを実施している学年なので、今後どのように成長していくのか楽しみである。

## III 生徒指導について

- ・自由記述に生徒が様々なことを書いたが、自分の思いを表現することができるということが大切で、生徒の思いを把握しながら職員が教育活動をしていくことが最も大事だと思っている。
- ・夏休みに ICT を活用し心の健康状態を記入した結果、先生が心配して電話をくれたという話を聞いた。不登校未然防止、いじめ防止、早期対応策として大切なことであると感じている。
- ・子どもの安心安全のため、ICT も活用し、生徒理解をさらに進めていく。
- ・学校を訪問すると生徒が気持ちよい挨拶をしてくれる。学校で生徒が主人公であることが分かる。

## IV 保護者・地域との連携について

- ・地域の情報伝達の役割をしている回覧板やホームページを通して、生徒教職員の取組の様子がよくわかる。櫛中たより「あやめ」も発行回数が増し、地域にとってより学校が身近な存在に感じられることは素晴らしいことである。
- ・学級だよりにおいては、先生方の中で競争する必要もなく、回覧板を通して学校の様子は保護者にも伝わっているので、自分のペースで発行したら良い。保護者の感謝の言葉も多くあるのでこのままの取組を進めてほしい。

- ・学校の主人公も地域の主人公も子どもである。自分たちの住んでいる地域にどのような人が存在しているのかという視点を持たせ、地域を知る、地域と仲良くなる活動を推し進めてほしい。
- ・コミュニティスクール推進については、いかに学校主体ではなく地域主体で進めていくかという点に課題がある。今の状況下でコミュニティスクールを作るならば、学校に丸投げではなく、学校教育を通して地域を作ることを地域が真摯にとらえ、教育委員会、地域主導で行うべきで、しかも慎重に事を運んでほしい。
- ・教員の働き方改革という点で、休日の部活動を学校から切り離して地域で、ということが話題になっているが、部活動は中学校の教育にとって大変大切な活動で、安易に地域が引き受けるわけにはいかない。地域が学校の教育の一部を覚悟をもって担うということが大切だと思う。

#### V 小中一貫教育・学校の特色について

- ・秋に「スリンプルプログラム」の参観をさせてもらい、活動内容がよく分かった。仲間を信頼しあって、意見を聴きあい人間関係を作っていくことは、学校の授業ばかりではなく子どもが社会に出て必要なことなので、小中一貫校の方針のもと今後もしっかり取り組んでいってほしい。
- ・生徒や大人が上手に人間関係を作れない場合それが原因で安心できない状況が発生し、生徒の足が学校から遠のくということも考えられる。人と安心して話ができるためにスリンプルプログラムが下支えとなっているのは大変良いと思う。さらに生徒の中には十分に先生に話を聞いてもらっていないという不安を抱えている子もいて、その子たちとの対話をする時間を生みだしてもらえることを願っている。
- ・子どもたちが、会えばいつも明るく挨拶をしてくれる。部活動では、学習は苦手でも部活動は楽しみで得意としている子もいる。成果の見えやすい活動でもあり、中学校においては部活動で自己肯定感が上がる子もいるので、今後も取り組みを継続してほしい。

記載責任者：橿形中学校 学校関係者評価委員会  
事務局